【福岡県】

福岡県立直方特別支援学校

肢体不自由教育部門　高等部

高校生ボランティア・アワード2023

支援する･される側から「支え合い」へ ～私たちにできること

高齢者施設との交流（傾聴ボランティア）

高齢者施設との交流も５年目を迎えました。昨年度もオンラインでの実施でしたが、利用者のみなさんに喜んでもらうだけでなく、一緒に楽しめる活動を考え、工夫を重ねました。

昨年度は、利用者さんと、オンラインで折り紙や脳トレクイズなどをしました。毎回工夫し、準備をしっかりすることで、楽しい時間がもてました。

今年度は、３名でのスタート。３名で内容を考えたりできるので、昨年度よりも充実した活動ができそうです。そして、交流をして「よかった」とお互いに思えるようになれたらと思っています。

もう少し先の話になりそうですが、ぜひ対面での交流を実現させたいと思っています。

まずは、お互い自己紹介から～

さすが３年生！表情に余裕が感じられますw

記念すべき、今年度･初の交流の様子

KAEDE（3年）

２年目は、自分で考えた企画で、利用者のみなさんと一緒に楽しく活動することができました。時には、うまくいかなかったこともありましたが、最後に「ありがとう」と言ってもらえることで、私もいろんなことにチャレンジする勇気をもらっています。毎回、利用者のみなさんの笑顔が見れて、とてもうれしいです。

SHODAI（1年）

初めてのオンライン交流で、すごく緊張しましたが、一緒に楽しく活動できました。反省点はいくつかありますが、次回の交流に生かしたいと思っています。何よりも、利用者のみなさんが笑顔になってくださったことが自分にとってとてもうれしかったです！

地域で生きる一人として ～知る、実践する、つながる、貢献する～

「自分たちのため」から「地域のため」に。

これまで、福祉的就労を目指している類型のみの活動でしたが、昨年度は重度重複障がいのある生徒も含めて、それぞれができることで地域と繋がった活動をしています。

知る

R4年度は、SDGｓについて学ぶと同時に、私たちの取り組みが、社会のさまざまな課題の解決につながっていることが分かりました。これからも、自分たちのためだけでなく、地域や社会とつながるために、まずは、目の前のことに一つ一つ取り組みます。

つながる

近所のカフェからいただいてコーヒー豆を脱臭剤にリサイクル

直方銘菓をモチーフにした成金饅頭マグネット

廃材を利用したメモスタンド

レジ袋を再利用！リサイクルポーチ

R4モデルのコーヒーラベル。

福岡県庁での販売会には。OriHimeでも遠隔参加しました

貢献する

今年も、直方市観光協会に売上金を寄付しました！

全員参加の「そうじの時間」

それぞれの「できること」で貢献する

自分たちが使っているトイレを中心とした週に１回の全員そうじ。すっかり定着しました。

そうじの内容は、一人一人の実態に合わせて、さまざまです。便器を磨いたり床を拭いたりする人、手洗い場を担当する人、教室のゴミを集める人、手すりの消毒をする人など、それぞれが「できること」で貢献しています。毎時間目標を決めて取り組むことで、効率的にできるようになってきました。

それぞれができることを、できる方法で取り組んでいます。

広いエリアを任されることで、やりがいを感じています。

小さな台車からスタートして、今では一番大きな台車で大量に運べます！

ゴミ回収に来るのを、準備して待ってくれているのが、うれしいです。

今年度は、さらにそうじ区域やゴミ回収区域を拡大しました。また、ペアで活動することで、役割も明確になりました。これからも個人で、また介助者と一緒に、参加や貢献のあり方を学ぶだけでなく、周りの人たちにも考えてもらうきっかけになるといいです。

できることを、できるところから。

それぞれの社会参加の在り方を実現するために。

私たちは、昨年度に引き続き、ここで紹介している活動は学校で学習活動として行っていることを紹介しています。この中には、自分で考え、工夫しながら取り組んでいることもあれば、先生方に教えてもらいながら活動していることもあります。はじめは、言われるがままやっていたこともありました。でも、「ありがとう」と言われたり自分たちがしたことが誰かの役に立っていることが分かったりしたとき、とてもやりがいを感じています。今後は、できるだけ自分たちで考えて行動していきたいと思っています。

継続は力なり。…だけど、これからは結果を出していきたい！

昨年度、学習発表会で私たちの活動を発表しました。その中で、取り組んできたことがSDGｓの目標そのものだったことに気付きました。

私たちは、さまざまなことが上手にできなかったり、時間がかかったりすることばかりです。でも、続けることで、目的意識や役割意識、手順の理解や責任感など、以前よりも大きく成長できていると実感しています。これからも、できるだけ自分たちで教え合いながら、それぞれができることに日々取り組んでいきたいと思っています。そして、私たちなりの社会参加のあり方を、多くの人に知ってもらいたいです。

福岡県直方特別支援学校　肢体不自由教育部門　高等部
Ａ類型２名、Ｂ類型９名、Ｃ類型４名　計１５名

私たちは、障がいや病気などにより、身体に「ちょっとだけ」ハンディキャップがあります。必要な支援を得ながら、仲間や先生方と共に夢や目標に向かってそれぞれに必要な学習をしています。日常生活では、進学に向けた勉強や、社会で活躍できるようになるための訓練など、自分に必要な学習にそれぞれが取り組んでいます。

当面の目標は、先輩方が築いてきたことをしっかり受け継ぎ、続けていくことです。これからもお互い助け合い、励まし合い、競いながら、自分らしく笑顔でいられるよう、がんばっていきます！